

鼎町史下卷 目次

一 鼎町の位置と歴史

二 鼎町に關する古書と地圖

三 鼎町に關する古書

四 鼎町に關する地圖

五 鼎町に關する古蹟

六 鼎町に關する古蹟

七 鼎町に關する古蹟

八 鼎町に關する古蹟

九 鼎町に關する古蹟

十 鼎町に關する古蹟

十一 鼎町に關する古蹟

十二 鼎町に關する古蹟

十三 鼎町に關する古蹟

十四 鼎町に關する古蹟

十五 鼎町に關する古蹟

十六 鼎町に關する古蹟

十七 鼎町に關する古蹟

十八 鼎町に關する古蹟

第五編 現代

第一章 自治……………三六

第一節 鼎町の歩み……………三六

一 発展の概要 1 産業 2 松川の治水 3 教育 4 厚生福祉

5 健康保健・環境衛生

二 発展の概要(その二) 1 四十年代後半 2 五十年代前半 3 五十年代後半

4 町の主な施設

三 飯田市との合併

四 広域行政 1 飯田地区広域消防組合 2 飯田市・鼎町・上郷町・上下水道組合

3 飯田衛生施組合

第二節 行政機構……………七二

一 役場庁舎の変遷

二 行政機構

三 歴代理事者・正副議長・議員・設置機関

第三節 人口世帯数の変遷……………七六

一 鼎町人口推移

二 男女数

三 人口動態

四 人口の年齢別構成

五 高齢化社会

六 地区別・年度別・人口推移

第四節 町の財政……………七六

一 概要

二 財政の推移

第五節 厚生・福祉・保健・衛生……………七五

一 厚生福祉の歩み

二 厚生・福祉

三 保健衛生

第六節 日赤奉仕団……………八〇七

一 赤十字奉仕団

二 鼎中学校JRC

第七節 警察・消防……………八二一

一 警察

二 防犯協会

三 消防防災

第二章 教育……………八三三

第一節 教育委員会……………八三三

第二節 学校教育……………

八三

一 幼稚園……………

二 小学校……………

三 中学校……………

四 下伊那農業高等学校……………

五 飯田長姫高等学校……………

第三節 社会教育……………

八五

一 社会教育施設……………

第三章 産業……………

八七

第一節 農業……………

八七

一 郡町の農業の変遷……………

二 農業構造改善事業……………

三 農業振興地域整備事業……………

四 米の生産調整……………

五 農村基盤総合整備事業……………

六 農業村落振興緊急対策事業……………

七 地域農政整備事業……………

八 農振特別管理事業……………

九 町の農業施策……………

一〇 農業委員会……………

一一 農業協同組合

第二節 畜産

第三節 果樹

一 りんご

二 なし

三 もも

四 ぶどう

五 うめ

六 かき

七 統合選果場の発足

八 広域選果場の発足

九 病虫害防除

一〇 栽培技術の変遷

一一 接木

一二 果樹災害

第四節 養蚕

第五節 蔬菜園芸作物

第六節 林業

一 松川入山林組合

八九二

九〇七

九〇八

九一〇

二 松川入学有林	
第七節 商工業	九一五
一 県の商工業	
二 金融機関	
第四章 都市計画事業	九三三
第一節 用途地域の設定	九三三
第二節 都市計画街路	九三七
第三節 矢高中央公園	九三〇
第四節 松川河川公園	九三一
第五章 交通・通信	九三三
第一節 交通	九三三
一 道路	
二 交通安全	
三 飯田線	
第二節 通信	九三六
一 郵便局	
第六章 各種団体	九五九
第一節 青年団	九五九
第二節 婦人会	九六〇

第三節 壮年団	九六五
第四節 老人クラブ	九六七

第五節 勤労者協議会	九七一
------------	-----

第六節 体育協会	九七二
----------	-----

第七節 観光協会	九七三
----------	-----

第六編 民俗

第一章 衣生活	九七七
---------	-----

第一節 作業衣	九七七
---------	-----

第二節 紡織と手染	九八一
-----------	-----

第三節 裁縫・洗濯・繕い	九八五
--------------	-----

第二章 食生活	九八七
---------	-----

第一節 食べ物	九八七
---------	-----

一 常の食

二 餅

三 うどんと代用食

四 赤飯・団子

五 その他の食べ物

第二節	食糧の貯蔵	九九三
第三節	味 噌	九九五
第四節	食 事	九九七
第三章	住 生 活	九九九
第一節	屋敷と建物の配置	九九九
第二節	母屋・付属建物・飲用水	一〇〇〇
第三節	間取りと部屋の使い方	一〇〇四
第四節	囲炉裡と燈火	一〇一
第五節	建築儀礼など	一〇一三
第四章	生産と生業	一〇一七
第一節	耕土と稲作	一〇一七
第二節	養 蚕 業	一〇一五
第三節	林 業	一〇一七
第四節	落 し 木	一〇一九
第五節	石 工 業	一〇三三
第六節	元 結 業	一〇三四
第七節	水 引 業	一〇三六
第五章	交 通	一〇三九

第一節	村の道	一〇三
第二節	大きな街道	一〇四
第三節	中馬・施設・旅行	一〇六
第六章	村の生活	一〇五
第一節	同族・近隣・村付き合い	一〇五
第二節	村の権利と組織	一〇四
第三節	村役	一〇七
第四節	年令集団	一〇六
第五節	相続と隠居	一〇三
第七章	民間信仰	一〇五
第一節	山に関する信仰	一〇五
第二節	水神・月読等	一〇七
第三節	産業神ほか	一〇九
第四節	同族神と家の神々	一〇七
第五節	講	一〇四
第六節	巡拝・読経碑等	一〇八
第八章	民俗知識	一〇六
第一節	躰と一人役	一〇六

第二節 前ぶれ	109
第三節 占い、物忌、呪術	109
第四節 民間医療	107
一 民間医療	107
二 民間医業	107
第九章 人の一生	100
第一節 妊娠・出産・乳児	100
第二節 幼児・少年・青年	104
第三節 結 婚	105
第四節 厄年と老年	100
第五節 葬式・年忌	111
第十章 年中行事	115
第一節 正月の行事	115
第二節 春の行事	118
第三節 夏の行事	111
第四節 秋の行事	116
第五節 冬の行事	119
第十一章 民俗芸能	113

第一節 力競べ	二二三
第二節 獅子舞	二三四
第三節 花火	二三六
第四節 芝居	二三九
第十二章 伝承	二四〇
第一節 わらべ唄	二四四
第二節 ことわざ	二六四
第十三章 説話	二七三
第一節 伝説	二七三
一 切石の七妙石	二七三
二 山の神がみ	二七三
三 萱垣山願王寺	二七三
四 矢高明神	二七三
五 一色禪正と隠し井	二七三
六 名古屋のお薬師様	二七三
第二節 昔話	二八五
第十四章 方言(語彙)	二九三

年表

鼎町年表……………	三三二
鼎町閉町式経過報告……………	三一九
年表を終わるにあたり……………	三〇三
鼎町史編纂委員・鼎町史刊行会……………	三〇五
参考文献・資料……………	三〇七
あとがき……………	三三〇